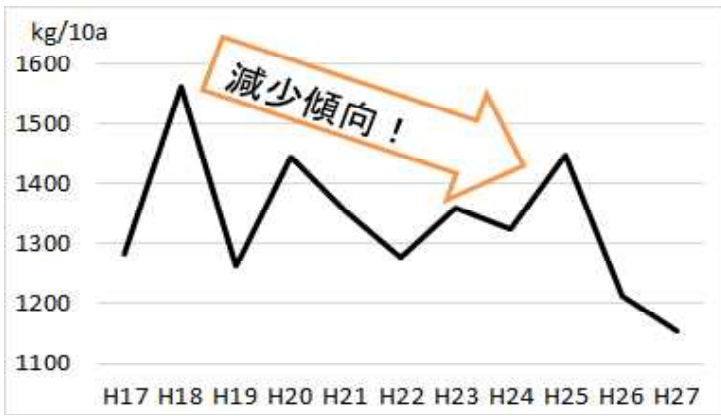


翌年の牧草収量を安定確保するために
二番草への施肥は重要

図一は過去十一年間の中西部支所管内の二番草収量の推移です。

年々右下がり傾向で、収量の落込みは、十一年で十アール当たり一五〇kg程度です。これは、二番草の施肥量不足等の要因が考えられます。そこで、今回は適性な追肥



図一 二番草収量の推移

について紹介します。

一 草種にあわせた施肥管理

翌年の牧草収量を安定的に確保するためには、草種にあわせて刈取後の追肥を行うことが重要です(表一)。

(一) チモシー

チモシーは一番草刈取後に施肥標準量を目安にしっかりと施肥しましょう。

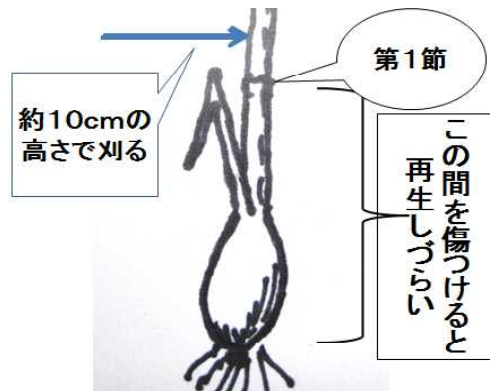
表一 草種別の1番草刈後の追肥 (例)

火山性土・マメ科率5~15%				
チモシー・ オーチャード グラス	窒素	リン酸	カリ	(例)BB420 での施肥量
	3.3	2.9	4.8	24kg/10a

※オーチャード3回刈りは2番刈取後も同量を施肥してください。

※チモシーは、刈取高さを約十センチにすることで球茎

が維持され、この貯蔵養分によつて再生しやすくなります。つまり五センチ程度の低刈りは球茎を傷める可能性があります。このことが個体数の減少につながります(図二)。



図二 チモシー球茎

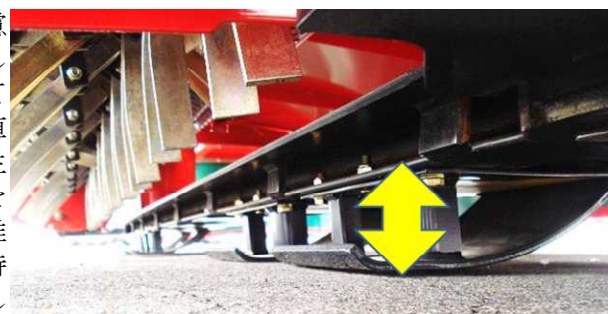
また、高刈にはスキッドプレート(スリットの装着が必要)になるのでご検討下さい。(写真一)

(二) オーチャードグラス

オーチャードグラスは、十月、上中旬の刈取危険帯時期の収穫を避けましょう。また、堆肥やスラリーの散布により、対応してください。

(三) その他の対応

牧草収量を安定的に確保するためには、以下のことに配



10cm程度の高さで刈ることができる

写真一 モアコン用スキッドプレート

慮して植生を維持しましょう。
 ・草地pH維持に「炭カル入り化成肥料」の活用
 ・追播機を用いた簡易更新
 ・輪作の考え方から、サイレージ用とうもろこしへの転換による雑草対策実施
”前年からのひとつひとつの管理を積み重ねていくこと”が翌年の牧草収量の安定確保につながります。